

人身事故証明書入手不能理由書の記入方法

人身事故が発生していても、交通事故証明書（人身）が入手することができない場合に、保険会社への保険請求に際して交通事故証明書に代えて提出する様式である。

交通事故が発生し、警察署や派出所へ届け出たが物件事故として処理されていたり、当日には異常がなかったが後日傷病が発生し、医師の診断書をもって警察へ届けたがあまり期間が経過していたりして、人身事故として取り上げてもらえなかった場合等がある。

この様な場合に、上記不能理由書を作成して交通事故証明書（物件）に添付して提出するか、交通事故証明書（物件）も得られない場合は不能理由書だけを作成し、請求書類に添付して保険会社へ提出する。

<記入の要領>

1 当事者欄は、運転者（甲）・被害者（乙）の住所、電話番号、氏名、生年月日、自賠責保険会社、自賠責保険証明書番号、登録番号（標識番号）、車台番号を記入する。

被害者の事故時の状況は、運転、同乗、歩行、その他を記入する。

2 事故発生日時欄は、発生年月日、時間、天候（晴れ、曇り、雨等）を記入する。

3 事故発生場所欄は発生した場所を詳しく（番地、枝番まで）及び国道、市道、県道、高速道路等を記入する。

4 届出警察欄は事故を届け出た警察署又は派出所名、届出受理した担当官の氏名を記入する。

5 届出年月日欄は実際に警察署へ届け出た年月日を記入する。

6 甲、乙以外の当事者欄は、甲・乙以外の当事者が、存在する場合は、その当事者の住所、氏名、自賠責保険会社、自賠責保険証明書番号を記入する。

7 人身事故証明書入手不能理由欄は、最も大切な項目であり、事故発生からの経過において事故時から届け出までの間につき、交通事故証明書（人身）の交付が得られなかった理由を詳細に記入する。

8 提出者署名欄は、提出者の住所、氏名捺印、電話番号、提出年月日を記入する。

提出者は、通常、運転者又は保有者であるが、被害者の場合もあり得る。

9 目撃者の署名欄は、目撃者がいる場合、その氏名捺印、住所、電話番号、署名年月日を記入する。